

練馬区在宅療養推進事業（平成31年度～平成32年度）（素案）

目標	高齢者等が在宅で安心して療養できる体制を構築する。	新規事業
----	---------------------------	------

区民が在宅療養を知り、地域で相談・支え合いができる環境の整備

①区民への啓発

目指すべき状態	目的	取組	概要	成果指標	目指すべき状態に対する指標	担当・所管
多世代が在宅療養や認知症について知っている。 区民が終末期の過ごし方について考え、大切な人と共有している。	区民へのさらなる周知 子世代区民（40代～50代）への周知 終末期の過ごし方について考える機会づくり	在宅療養講演会の開催 2回/年	<u>在宅療養講演会の各回で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）※の内容を盛り込み、終末期の過ごし方について考える機会とする。また、家族向けのテーマを取り上げ、子世代区民の参加を促す。</u>	講演会参加人数 【新規】講演会アンケートの「講演を聞いて、どのような医療や介護を受けたいか、家族や専門職等と話し合いたいと思った」の割合	高齢者基礎調査 在宅療養が難しいと思う理由「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」のポイントの減少  高齢者基礎調査 【新規】「家族等と最期の医療について話し合ったことがある」	地域医療課
		認知症基礎講座 認知症地域生活講座 各3回/年	認知症サポート医による認知症の基礎的な医学的知識を学ぶ講座。認知症の方が地域で安心しての暮らすため、地域密着型サービス等を活用した在宅生活を学ぶ講座を開催する。	講座参加人数 講座アンケートの「講座内容がわかりやすかった」の割合		高齢者支援課
		区民啓発ガイドブックの活用 ・在宅療養ガイドブックの改定 ・認知症ガイドブックの増刷	病院の医療連携室や診療所、歯科診療所、薬局、地域包括支援センター、区立施設等の多様な場面で区民に配布する。また、講演会や地域ケア個別会議等で利用し、在宅療養および認知症の周知啓発を行う。 <u>在宅療養ガイドブックにACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する項を設け、終末期の過ごし方について考える機会とする。</u>	区民向けガイドブックの発行部数		地域医療課・高齢者支援課

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング）…自分の最期の医療や介護について、家族や医師、看護師など周りの支えてくれる人たちとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うこと

②相談体制の充実

目指すべき状態	目的	取組	概要	成果指標	目指すべき状態に対する指標	担当・所管
身近な地域で専門性の高い相談ができる。	区民等の相談窓口の強化  認知症患者の早期発見、相談窓口の充実  摂食えん下機能の低下の早期発見と支援	地域包括支援センターの移転・増設	<u>地域包括支援センターを身近で利用しやすい窓口とするため、区立施設等へ移転・増設を実施する。</u>	相談件数（延件数）	高齢者基礎調査 家族介護者の負担や困りごと 「誰に、何を、どのように相談すればよいかわからない」の回答割合の減少	地域包括支援センター
		認知症相談事業（認知症初期集中支援チーム）	地域包括支援センターにおける認知症相談の利用促進と認知症専門医や専門病院との連携による初期集中支援の充実を図る。	認知症相談件数（延件数） 初期集中支援チーム対象者数		地域包括支援センター
		<u>摂食・えん下機能支援事業の実施</u>	<u>摂食・えん下機能支援センターで区民、事業者等の相談に対応する。摂食・えん下機能の低下を早期に発見するため、簡易チェックシートを用いて評価し、必要な予防、支援につなげる。</u>	摂食・えん下推進事業の利用者数、支援につながった利用者数		歯科医師会・地域医療課

③地域での支え合い

目指すべき状態	目的	取組	概要	成果指標	目指すべき状態に対する指標	担当・所管
在宅療養の当事者とその家族を地域で支える。	認知症の方が住みやすい地域づくり	認知症サポーターの養成と活用、N-improを用いた研修の実施	区民や地域のコンビニ店員などを対象に、認知症についての正しい理解を促進し高齢者への対応力の向上を図る。	各取組の参加人数 講座アンケートにおける「仕事や生活で講座の内容が役立つ場面がある」の割合	在宅介護実態調査 在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護「認知症状への対応」の減少  高齢者基礎調査 家族介護者の負担や困りごと 「誰に、何を、どのように相談すればよいかわからない」の回答割合の減少	高齢者支援課（協働推進課）
	介護経験者による介護家族への支援	介護なんでも電話相談	介護の悩みを気軽に話せるよう、介護経験者による電話相談の利用促進を図る。	相談件数 相談者の声		NPO法人認知症サポートセンター・ねりま・高齢者支援課
	介護家族の学習・交流の場の充実	介護家族の学習・交流会	社会が支える介護を学ぶ講演会および介護の経験交流会。1日制×年4回。	参加人数 参加者アンケートにおける「参考になった」の割合		NPO法人認知症サポートセンター・ねりま・高齢者支援課
	地域活動の見える化	在宅療養を支える地域活動のリスト化	地域活動の見える化を図り、区民が自由にアクセスできるようにする。	リスト掲載数		高齢者支援課・地域医療課・その他関係機関

専門職が安心して在宅療養を推進できる環境の整備

①専門職のネットワークの充実

目指すべき状態	目的	取組	概要	成果指標	目指すべき状態に対する指標	担当・所管
医療・介護従事者のネットワークを充実し、よりきめ細やかなサービスが提供できる。	多職種顔の見える関係づくりと相互理解の促進	事例検討会（ACP）の開催 4回/年 認知症事例検討会の開催 4回/年	多職種の顔の見える関係づくりと相互理解の促進のため、多職種でグループディスカッションを用いた検討を行う。 <u>テーマとしてACPを取り上げる。</u> 認知症支援をテーマとした事例検討会を認知症疾患医療センター（慈雲堂病院）を中心に開催する。	事例検討会アンケートの「他職種のサービス内容に関する理解が深まった」「同グループの方と今後も連絡を取り合える関係性を築けた」の割合 認知症事例検討会アンケートにおける満足度	練馬区医療・介護資源調査 各職種間の望ましい関係と現在の関係の差の減少	地域医療課・高齢者支援課 認知症疾患医療センター
		自主的な事例検討会の立ち上げ支援	地域包括支援センターが地域の医療・介護事業者等による自主的な事例検討会の立ち上げを支援する。	支援数		高齢者支援課
		<u>多職種協働による地域ケア会議等の実施</u>	<u>地域包括支援センターごとに、個別ケースの支援内容の検討等を通じ、医療・介護事業者の各専門職、地域の関係者が協働し、地域に共通する課題・不足する社会資源を把握し、地域包括ケアシステムの実現を目指す。</u>	地域ケア会議の開催数		高齢者支援課
		ケアマネジャーの育成	<u>ケアマネジャーの資質を向上するため、主任ケアマネジャーが初任ケアマネジャーの業務に同行する「地域同行型研修」</u> や、在宅療養を支えるチーム員会議の運営方法を実践方式で学ぶ「地域カンファレンス」等を実施する。	研修受講者のアンケートによる満足度		高齢者支援課
	医療・介護の情報共有の促進	ICTネットワークの推進（補助金事業）（H32年度終了予定）	医療・介護関係者のICTネットワークを活用した情報共有を推進するため、デバイスの購入費等について補助する。	補助事業所数		地域医療課
		医療・介護連携シートの活用	主に高齢者に関わる関係機関の連携を円滑にするため、担当者記載のシートを地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、薬局にて配付する。	発行数 練馬区医療・介護資源調査で医療・介護連携シートの認識の「知らない」の割合の減少		高齢者支援課
	病院と在宅サービスの連携の強化	在宅医療同行研修の実施	病院スタッフが在宅医療スタッフの現場に同行し在宅医療業務を体験する研修を実施する。実施後には、参加者が研修で体験した内容や気づいたことについて病院スタッフと在宅医療スタッフとの意見交換等を行う振り返り研修を実施する。 <u>看護師のみならず、リハビリテーション職種や薬剤師等の対象者を拡大する。</u>	在宅医療同行研修受講後アンケート 【新規】在宅医療業務に対する理解度		地域医療課
		退院連携推進事業（H31年度終了予定）	平成30年度までに出来た退院連携のガイドラインを基に、区内の各病院スタッフと調整しながら、病院ごとのガイドラインを作成する。	ガイドラインの作成数		地域医療課

②サービス提供体制の充実

目指すべき状態	目的	取組	概要	成果指標	目指すべき状態に対する指標	担当・所管
24時間365日在宅医療を提供できる。	緊急時に入院できる環境の整備	後方支援病床の確保	練馬区医師会員の事業として実施。訪問診療を実施している主治医が、一時的な入院治療が必要と判断した在宅療養者を協力医療機関が、短期間受入れる。（練馬区補助金事業）	後方支援病床の利用件数	練馬区医療・介護資源調査 後方支援病床を「知らない」と回答した診療所の割合の減少	医師会・地域医療課
	【検討】在宅医の負担軽減	【医師会との検討】 夜間・休日の負担軽減を図るための体制を検討				医師会・地域医療課
	【検討】在宅に関わる医師の増加	【医師会との検討】 在宅医療への参画を推進するための研修会等を検討				医師会・地域医療課
	【検討】在宅医の専門外診療の支援	【医師会との検討】 在宅での他科連携の推進するための取組を検討				医師会・地域医療課
摂食えん下機能の低下に対し、適切に案内できる。	摂食えん下機能の支援体制の見える化	<u>摂食・えん下連携医療機関マップの更新</u>	<u>区内の摂食・えん下機能に関する連携医療機関等を一覧にし、どのような処置・検査等が可能かを関係者に情報提供する。</u>	年に1回データを更新する	練馬区医療・介護資源調査 【新規】摂食・えん下連携医療機関マップの認知度	歯科医師会・地域医療課

【指標】

目指すべき状態	取組	概要	担当・所管
在宅療養を取り巻く現状と経年的な変化を把握し、区民、事業者のそれぞれの状況と合わせ立体的に分析し、在宅療養推進事業の今後の方向性を検討する。	地域資源情報把握 (4回/年)	在宅療養支援診療所数(在宅医数)、訪問看護ステーション数、各種介護保険サービス事業者数(24時間対応、医療対応型)、その他資源数等の量的な医療介護資源の現状を把握し、他の調査と合わせ、在宅療養推進事業の今後の方向性を検討する。	地域医療課
	医療・介護資源調査(1回/3年) ⇒次回H31実施(高齢者基礎調査に合わせる)	医療・介護事業者へのアンケートで質的な医療介護資源の現状を調査し、練馬区における在宅療養の環境整備状況および在宅療養推進事業の現状と課題を把握する。	地域医療課
	死亡小票分析(1回/年)	死亡場所別死亡者数(医療機関死亡者数、自宅死亡者数、施設死亡者数)、死因別死亡者数、医療機関別自宅看取り数等を把握し、今後の在宅療養の需要を予測する。	地域医療課
	高齢者基礎調査(1回/3年)⇒次回H31実施	区内の高齢者等を対象に、生活実態等を把握し、在宅療養推進事業の今後の方向性および練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を検討する。	高齢社会対策課